

## 八学大男子バスケット部

# 大学、社会人チームと年間リーグ戦開催



競技力向上のために互いに学び合いながら真剣勝負をする  
八学大と八戸クラブの選手=7日、八戸市

# 八戸市内の競技力向上へ

八戸学院大男子バスケットボール部が今年5月から、八戸市内の他の大学や社会人クラブのチームを招き、年間を通してリーグ戦を行う「八戸トレーニングプレリーグ」を開催している。市内には日本バスケットボール協会に登録する社会人チームが2チームしかない

く、対戦機会が少ないのが現状。市内の競技力向上を目指して、リーグ戦を企画した同部の橋本監督(33)は「普段は戦うことのないチームが試合をすることで、強化につなげた」と意義を強調する。

(上村公徳)

## 対戦機会増やし高め合う

リーグには八学大をはじめ、八戸工業大、根城TITANS(タ イタンズ)など現在、6チームが参加。特に社会人チームにとつ てはこれまで、7月の 天皇杯県予選や10月の 全日本社会人選手権県 予選といった限られた 試合機会しかなかった。今後、協会に登録 していない社会人チー ムや高校にも参加を 呼び掛け規模を広げ いく構想で、「さまざ まな世代が交流するリ ーグにしたい」と橋本 監督。

今月7日には同大 育館で、同大と社会人 チーム「八戸クラブ」 による対戦が行われ、 真剣勝負を通して互い を高め合った。同クラ ブの豊善裕介主将(25) は「年間を通して試合 ができるため、オフシ ーズンでもモチベーシ

イ」と語った。この日の試合で主審を務めた小野裕樹さん(43)は「次々と新しくなるルールにのっとり、正しく選手を導くことが大切だ」と話す。副審の笹井彪我さん(20)は「八学大男子バスケットボール部学生コーチ兼審判」は「資格を持つ審判から、学んだものを部に還元することが競技力向上につながると思う」と真剣な表情だった。

リーグについて橋本監督は「チームが強くなるのが第一だが、リーグの規模拡大に合わせ、さまざまな世代が競技を楽しみながら学び、地域に広がればよい」と語った。

ヨンを保つことができ る。学生との試合も新鮮で互いに学び合える 機会」と話した。スピード感や娯楽性の 追求から、毎年のよ うにルール改正が行わ れるバスケットボ ール。青森県内では審判 不足が深刻な状況で、 若手の育成や選手たち のルール理解もリーグ の目的の一つとなつて いる。県大会や東北大 会で審判を務めること ができる、B級以上の 資格を持つ審判を招 き、公式戦ながらの 試合を繰り返す。